はらぐち閑話

その 10

発行者　戸畑はらぐち酒店はらぐち会
編集責任者　吉本・浦野・前田・大内田・諸岡・安行
発行日　平成 24 年 9 月 10 日 17

記念すべき、「はらぐち閑話」10 号の発刊、心よりお喜び申し上げます。

9 号に思いもかけず弊会、神戸角打ち学会の記事を掲載いただきありがとうございます。
会員に回覧したところ「一軒のお店がこれほど中身の濃い会報を出しているのはさすが角打ちの本場」と、感心することしきりでした。
また、須藤会長様より「角打ちのすすめ」をいただき、私と事務局で、阪神間で苦労して営業している角打ちのお店を訪問。店主に手渡すと「励まされた、もうやめようと思っていたが元気が湧いた」と嬉しい反響が得られました。これからも、はらぐち会様、角文研様にご教授戴き交流を密にしていきたいと思います。

さて、この場をお借りして、神戸角ち学の活動の一端をご紹介させていただきます。
昨年の２月に、大分長浜角打ち学会様のお力添えにより、神戸の地に「神戸角打ち学会」を立ち上げ、角文研様より安行啓二様のご来臨を賜り盛会裏に発会式を執り行うことが出来ました。
本年の４月に１周年記念として大阪十三にある名立ち呑み店「呉羽中島酒店」を貸し切り、炭酸水研究発表を催行。7 月の路面電車貸切「大人の酒遠足」に続き、この秋たて続けに豪華 2 本立てを企画。9 月には「裏六甲の里山を歩いたあと農家食堂で“ウスキボウル”を飲む会」また、10 月には大阪天満の吟醸角打ち「西海酒店」で「鳥取“強力米酒”の悦楽に浸る昼酒会」などマニアックな催しを発信します。
これ以外にも分科会として少人数で研究テーマを定め、学会の名に恥じない活動も行っております。さらに「灘の地酒バル」と題して灘の地酒蔵とエリアのお店を繋ぐ街おこしイベントにも参画しています。
あわせマスコミには「角うちの何たるか」を啓蒙して、角打ちの普及を広める活動も継続いたしております。
角打ちの本場との素晴らしく奥深い心のつながりが大切との思いはつのるばかりです。
今後共なにとぞよろしくお願い申し上げます。

神戸角打ち学会会長 渡邉敏則
事務局長 伊藤博道

『大分 87 駅遍路旅』

長浜角打ち学会:吉田　寛

大分市長浜の御手洗酒店の角打ち仲間には、鉄道ファンが多くて、たまに皆で列車の旅をやっているんですが、そもそも、我が大分県には JR の駅がいくつあるのかという疑問を持った私が調べてみたら、87 駅でした。その中のいくつの駅に下車したかというと、皆たいしたことはない。それなら、という訳で、勿論、お酒の力もあって、全部行こうじゃないか。歩いて行こうじゃないか。せっかくだから線路に近い道を選んで行くんじゃ！　よだきいけん月に一回にしょうや。となったのが始まりなのです。

2011 年7月 23 日(土)午前5時。JR 大分駅に集合した我々は、最初のルートを豊肥本線に定め、
『大分駅』→『古国府駅』→『南大分駅』→『賀来駅』→
『豊後国分駅』まで歩破しました。その次は『豊後国分駅』まで列車で行って、
そこからリスタートで『向之原駅』→『鬼瀬駅』→『小野屋駅』→『天神山駅』
→『庄内駅』またリスタートで『湯平駅』→『南由布駅』→『由布院駅』ここから先は、
水分峠越えなので、一旦ルート変更で、日豊本線下りルートへ。
大分駅から『牧駅』→『高城駅』→『鶴崎駅』→『大在駅』ここでまたルートを日豊本線上りに変更して、大分駅から『東別府駅』→『別府駅』→『別府大学駅』→『亀川駅』→『豊後豊岡駅』→『暘谷駅』→『日出駅』ここから先はまた峠なので、久大本線にルート変更で、大分駅から『滝尾駅』
→『敷戸駅』→『大分大学前駅』→『中判田駅』→『竹中駅』→『犬飼駅』→『菅尾駅』で、
ルートを日豊本線下りに戻し、『坂ノ市駅』→『幸崎駅』→『佐志生駅』→
『下ノ江駅』→『熊崎駅』→『上臼杵駅』→『臼杵駅』→『津久見駅』→
『日代駅』→『浅海井駅』→『狩生駅』→『海崎駅』→『佐伯駅』で、44 駅
クリアしたのが、2012 年8月 26 日(日)でした。87 分の 44 駅だから、残り 43 駅です。計算上は来年の今頃オールクリアできそうですが、難所が数多く残されており、苦戦が予想されます。それでも毎回、10 人前後のおいさん、おばさんが頑張って歩きます。このメンバ―全員が角打ち仲間で、年齢も職業もバラバラ。角打ちの場がなかったら、出会わなかった人達ばかりなのです。
それなのに、汗をダラダラ流し、脚をガクガクさせながらも歩くんです。
そもそも、歩くきっかけを作ってくれたのは、さいたまから大分の御手洗酒店まで歩いてやって来た、旅人「ぶら目玉」こと松住隆夫氏です。感謝です！
まあ、そんな訳で、角打ちを愛する皆様方へ、ワタシが言いたいのはですね、

「角打ちするなら、足腰鍛えろ！」です。

元気でなければお酒は美味しく呑めません。しかも角打ちは基本、立って呑むべきです。その為には、日頃から心身を鍛え、特に衰えの早い足腰は丹念に！
そして、笑顔で楽しい角打ちを 10 年後も 20 年後も続けるんです。と、

自分自身に言い聞かせよるんは、**なしか！**

※『大分 87 駅遍路旅』の詳細は、『吉田寛 web』の中で紹介しています。

目 玉 ナ ビ　vol.2
―「やきとり」の街・東松山でホッピーな旅―

旅 人‘ぶら目玉’こと　松住　隆夫

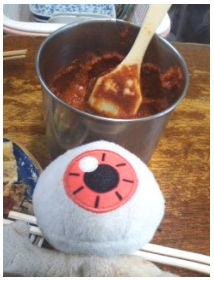
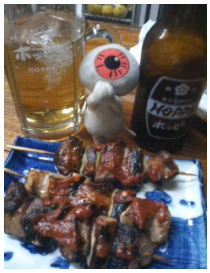
はじめに、『はら閑』その 10、節目の発行、おめでとう(^o^)/

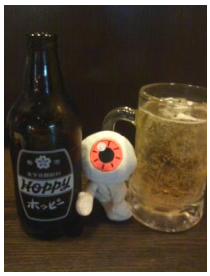
■辛い味噌だれをつけて食べるのが東松山風(^_^)b

埼玉県の中央部に位置する東松山市には「やきとり」と書かれた居酒屋（写真１）がたくさんある。面白いのは「やきとり」と言いながら、使われる肉、鳥肉ではなく豚であること。それも‘ほほ’と‘こめかみ’の部分にあたるカシラ肉が一般的で、肉の間にネギを挟んで焼くいわゆる‘ネギマ’（写真２）である。炭火で焼きあげ、辛い味噌だれをはけで塗って食べるのが東松山風だ。

ルーツは在日韓国系の方が、昭和 30 年代前半に当時串ものに使われなかった安いカシラ肉にネギを挟んで炭火で焼き、朝鮮風の味噌を塗って出したのが始まりとのこと。白味噌をベースに唐辛子、にんにく、ごま油、みりん、果物などをブレンドして作った各店オリジナルの味噌だれ（写真３）は、その名残である。味噌だれは秘伝の味で店ごとに競い合っており、ハシゴをすれば微妙に味の違いが楽しめるのも東松山の良さだ。どの店も‘ネギマ’一本 120 円と安いのもうれしい。

(写真 1)店構え　(写真 2)ネギマ　(写真 3)味噌だれ　(写真 4)串も色々　(写真 5)ホッピー



■‘郷に入っては郷に従え’注文方法に東松山流儀、お酒はホッピーが似合う(^o^)v

東松山の「やきとり」には独自の注文方法がある。店に入って酒を注文すると、あとはなんにもしなくてよいのが基本だ。どういうことかというと、カシラ肉は焼きたてが美味しく、冷めてしまうと硬くなって味が落ちてしまうので、店は一本ずつ炭火で焼かれた‘ネギマ’を出し、客の食べ具合を見て次の一本を焼くのだ。だから、放って置くと‘ネギマ’ばかり出てくるのである。初めて行ったときは、この流儀が分からなくて困惑したが、慣れてしまえばこっちのものだ。他にレバー、バラ、タン、ハツなどの種類（写真４）があり、食べたければ「次はレバー焼いて」と言えば良いし、店によってはお願いすれば数本まとめて焼いてもくれる。満足したら「もう焼かないで」と伝えると注文は止まる。

「やきとり」に合う酒と言えば、ホッピー（写真５）を挙げたい。九州など西日本ではまだあまり飲まれていないが、東日本、特に関東では人気がある。アルコール度 25 パーセントの焼酎を入れたジョッキにホッピーを注いで割って飲む。これが美味くて、なかなかいい気分になる。焼酎とホッピーの割合は個人の好みで構わない。「なか」と頼めば焼酎だけ、「そと」と言えば瓶ホッピーだけおかわりもできる。

味噌だれをはじめ、どの店にもそれぞれ味がある。東京・池袋から東武鉄道東上線の急行に乗り１時間ほどで着く東松山には、駅周辺だけでも２０軒近くの店がある。なんでも、東松山「やきとり」の隠し味は‘人情’なのだとか。目玉も二日かけ、松川屋、若松屋、ひびき、大島屋とハシゴしたが、店や地元の人との交流もあり、また行きたくなる思いであった。

［ホッピーな旅 実施日：2012 年(平成 24 年)7 月 10 日(火)・ 25 日(水)］

天籟寺川橋物語エピローグ

上田　喜久雄

白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒は静かに飲むべかりけり　牧水

９月も 10 日を過ぎるとあんなに恋しかったビールに変わり、お酒が恋しい季節となった。

今まで、自宅前を流れる天籟寺川など気にもとめなかったが、朝晩、川を眺めながら歩いていると妙にいとおしくなる。

市上下水道局によると、天籟寺川の源流は、峠を越えて八幡に向かう美術館あたりの湧水と地下水で、最近は新幹線の湧き水も導水として川に放流しているらしい。

川の上流は鞘ヶ谷社宅街で「ほたる橋」や「鞘ヶ谷橋」が架かっているが、「福柳木橋」から先は暗渠となっている。

再び川が姿を見せるのは「菅原橋」からで、ここから１５の橋を下って洞海湾にそそいでいる。全長数キロの小さな川であるが、その川に架かる橋の名前は先人がそれぞれに考え抜いた由緒あるものである。

１５の橋の名前は上流から順に、「菅原橋」・「天神橋」・「猿渡橋」・「椎木橋」・「竹の下橋」・「新池橋」・「高峰橋」・「丸山橋」・「沖台橋」・「向町橋」・「相生橋」・「昭和橋」・「御馬橋」・「志ん川橋」・「牧山橋」だが、これから数回にわたって主だった橋の由来について書いてみたい。

暑いながらも秋なのだ

瓦口　龍

まだ夏最中の８月ですが、７日立秋からは、俳句的には秋なのであります。秋の季語を見ますと、秋麗、秋澄む、爽やかなどと、空も大気も心までもが澄み渡り、小沢昭一的には嫌いな季節なのであります。当然俳句も気品に満ちあふれた句が多いわけであります。

月夜逢ふみ仏ほどに胸ゆるめ　　きくち　つねこ

ゆく秋を乙女さびせり坊が妻　　芝　不器男

などが勘繰れば小沢昭一的ではありますが、秀句とするにはいま一つ踏み込み不足であります。

手の奴、足の乗り物の故事にならい、掲句の中の、み仏ほどに、坊が妻の言葉を尻がかり、いや手がかりに、さる蓮寺の吟行のご紹介。

寺の名前、場所などの些細をことはさておき、行きなりの寺の門前。

蓮畑が広がり早くもシャワーの先のような実をつけている中に、残り蓮の花が咲いていました。師匠を含めて７名、２台の車での吟行となりましたが、早くも手に手に手帳を取り何やら書き留めています。しかし私は蓮の花には感激しましたが、盛りを過ぎた花でして、ものの哀れを詠み上げるほどの手練ではありません。

山門をくぐると脇に一組の石臼が忘れられたように置かれています。右手には陰を伴った土塀があって庫裏と庭とを仕切っています。古井戸もあります。吟行とはそのような情景を感性で切り取り、句作りを進めていくわけですが、わが感性は昼寝中なのです。しかし、六感はそんな私を奥へと誘うのです。途中参拝の女性と出会い挨拶を交わしてさらに進んだ所に、お寺の本堂がありました。４、５段の階段の上に廊下、そしてその一段上に本堂があります。小沢昭一的覚醒。

廊下の部分に堂守りさんらしき女性が少し立て膝気味に座っているのでございます。

その様子から先ほどの参拝客と話していて、私どもの気配を感じ観音様然とお待ちくだ

されたのであります。40 代前半、中肉中背、しかも好き者、小沢昭一的感性全開なのであります。

黒のノースリーブの刺繍のワンピース、座る姿勢のため膝小僧丸出しで、尚かつ、尚かつ開き気味なのであります。思わず目を背けたくなりましたが、感性を磨く吟行の場、しっかり観察したのであります。

サービス過剰な坊守りさんは、しかもその上、子山羊を連れているのです。寺にいようと山羊は山羊。尿（いばり）、糞（まり）を所かまわずにやってしまうのです。40 代前半、中肉、中背坊守りさんは少しもあわてず、山羊が３月に生まれたこと、平次という名前であることなどを、まことにもの憂げに語るのでございます。いつの間にか雑巾、箒（ほうき）、ちりとりを持った坊さんがいずこかより進み出て、能の仕手よろしく始末をしております。子山羊は快眠、快便と見えて、所かまわず繰り返し、坊さんも繰り返し、坊守りさんはサービス過剰で、まことに平和な名刹でございます。

一行はすでに散ってしまいましたが、ただ呆然と立ち尽くすのみでございます。やがて能の終わりが来たように、坊さんは草履を、坊守りさんはサンダルを、子山羊はもちろんはだしで、庫裏のほうへと消えていったのでございます。

小沢昭一的まことの名刹でございます。

坊守りの眩しすぎるや蟻地獄
坊守りはモンローウォーク露の峰
羅（うすもの）や坊守りが飼う山羊につの　　柳一

はら閑 10 号まことにおめでとうございます。

ビールと氷と象さんと

内田　博巳

タイで必ず食べるもの。「トム・ヤム・クン」に「カオ・パット・クン」。飲み物は「ナム・ソム・カン」と「ビア・チャン」。

「トム・ヤム・クン」は、海老のスープ。「カオ・パット・クン」は、海老焼飯。「ナム・ソム・カン」は、オレンジジュースで、「ビア・チャン」は、タイビール。6.4%とちょっと強めのこのビールが好きだ。「ビア・シン」もあるのだが、「ビア・チャン」の方を注文する。なければ、「ビア・シン」だ。

「チャン」は、タイ語で「象」、「シン」は「獅子」のこと。「ビア・チャン」のラベルには、向き合った二頭の白象が、「ビア・シン」の方には、一頭の黄金の獅子が描かれている。

たまに、あまり冷えてないビールが出てくることがある。そんな時は、グラスに竹輪状の氷を入れて飲む。これが案外と旨い。前に、フィリピンのオロンガポで、サンミゲルビールに氷を入れて飲んでいたらフィリピン人の友人に、「フィリピン人みたいだな」って言われたことがある。この飲み方って東南アジアっぽいらしいい。

バンコクのバーでは、ビールの小瓶を保冷ホルダーに入れて出してくれる。ところが、

この手のバーには酒の肴がない。肴は、店の女の子に屋台で仕入れて来てもらったり、おつまみ売りや茹でピーナツ売りがカゴを提げてやって来るのを待つ。

他にも、花売りの子供が、靴売りが、果は宝くじまで売りに来る。坐って酒を飲みながら色々なものが揃う。便利と言えば便利だが、ついつい要らないものまで買ってしまう。

ある時、バナナを持った男が店に入って来た。そのバナナを一房買った。その一房には、大きなおまけが付いてきた。一頭の象が店の中に。まあ、ドアもない、壁さえもないガレージみたいな作りの店だから象の一頭くらい入れる。一房のバナナはこの象の餌だったのだ。

象は、田舎での森林伐採の規制強化で失業し、このバンコクの夜の繁華街に出稼ぎにやって来た。そう言えば、この店で働いている女の子たちもイサーン（タイ東北部）からの出稼ぎだ。

バンコクの人口は、横浜市の約２倍の 700 万人弱。大都会である。その人口が農閑期には出稼ぎで増える。出稼者たちの落ち着き先はイサーン出身者が多く住むスラム。そのスラムがバンコクには約 1800 カ所ある。そこには、バンコクの人口の１／７が暮らしているという。

そんなことを考えながら、バンコクという大都会の真ん中で象を眺めながら、象さんビール（ビア・チャン）を飲む。

（因みに、タイ王国の地図を眺めていると、象の頭に見えてくる。口の場所にバンコクがあり、耳の部分がイサーンに当たる。どこにまで行っても「象」に縁がある国である。）

登山にて思った――なぜ高齢久住登山者の遭難が多いのか――

白石　傅

今年の初夏、穴生学舎の友人に誘われ、ミヤマキリシマの咲き誇る久住山に挑戦した。男性４名、女性６名、全員６５歳以上、７名が初対面のメンバーである。

社会人になって、時間の余裕がなかったのと、他県で暮らすことが多かったせいか、何度か登った久住の山々と地元の福知山は九州の中では好きな山である。

１日目は北九州から牧ノ戸まで乗用車２台に分乗し牧ノ戸登山口から久住山登頂後、久住高原ホテルに宿泊、翌日は由布院を散策しドライブがてら帰幡する非常にゆっくりした行程である。

前日の北九州市内は朝から大荒れ、雨がどしゃ降りの状態であった。当然、中止の連絡があると思っていたらホテルも予約済みであるし強行するとのこと。

当日早朝、小雨の中を出発し牧ノ戸登山口に到着した時は、登山道の下まで濃霧に覆われていた。休憩すること約３０分、偶然か 100 メートル上の展望台までガスが晴れてきた。そこまで行こうという事で展望台まで上がった。そこで出会った下山者から、もう少し行くと“ミヤマキリシマ”の群生している所があると聞かされ、そこまで行くことになった。話が違うなと思いながら従うことにした。

ところが、土の道だったのにいつの間にか石ころ道になり、河原の中を歩いている感じになった。そして行く手に、10 メートルはあると思われる岩場が出現した。前日からの雨で、岩はぬれているし足元は水溜り。防水手袋をして小枝を掴みながら何とか乗り越えた。こんなことは記憶になかった。

他の９人は、と見ると、皆、両手でストックとペットボトルを抱えていた。これでは岩場は上れない。結局、女性のペットボトルは自分のリックサックに入れることにした。

難所を越えて現れたのは待望の“ミヤマキリシマ”の群生、山の上から谷間まで、ピークを少し過ぎてはいるがピンク一色。ただ、久住山頂付近と谷の途中はガスが発生し視界はそこまででであった。

扇ケ鼻と久住山頂との分岐点まで来た。坊ガツルが目の下にあった。女性の一人がこのコースは通称”幼稚園コース”と教えられたと言う。きた道を振り返ると河原道の両側に細い土色の細い道が見え岩場付近まで続いて、そこで消えている。

（下山して地元の人から、昨日の豪雨で岩場の迂回路が流されたと教えてくれた。）

ここで、意見が分かれた。一気にこのまま登るとの女性論、ガスが出ないうちに下山すべきという意見少々であったがリーダーの一言で決まった。“昼食”を置いてきたから下山する。なんと他の人は全員リックサックを車の中に置いてきたのだ。勿論、我がリックサックには昼食２食分・缶詰・着替え・懐中電灯・ウイスキイーまで入っていた。

女性の殆どが久住級の山は初めて、男性群も登山グループに属してはいるが、定年後の経験者。このまま強行し、ガスの中、流水の河原道を下山できるのか？岩場を無事登れるか？いい判断であった。

インターネットで“牧ノ戸コース”は夜間でもなんなく登れると紹介しているが、山は舐めたらいけない。

最近、年長者の山での遭難事故が多い。今回の久住山登山について考える時、なるほどと思うこの頃である。

「かくうち」の思い出

はらぐち酒店店長：原口　修一

昔の酒屋と言えば「かくうち」スタイルの店が標準的なもので、うちの店にも１５人ほどが並んで飲めるカウンターがあり、いつも夕方になるとビール、日本酒、焼酎を仕事帰りに飲むお客さんで一杯になっていました。

特に相撲がある時は、多くのお客さんが店内のテレビに釘付けになり、一喜一憂して盛り上がっていたのを覚えています。

私も、小学生の頃には時々「かくうち」を手伝っていましたが、倉庫から持ってきたビールを水冷の冷蔵庫の手前に入れてしまい、「冷えてないビールを出してしまった」と言って怒られたこともありました。

当時のおもしろい飲み方としては「焼酎のオレンジジュース割り」というのがありました。グラスに８分目まで焼酎を入れ、あとの２割はオレンジジュースを入れるという飲み方で、今から考えると「酎ハイ」の元祖的な飲み方だったのかもしれませんが、なんとなくおいしそうにみえたのを覚えています。

また、ちょっと粋に感じた飲み方は、本を読みながらちびちびとやって帰るというもので、私にとってはとてもかっこよく感じられました。

そんな感じで、当時はのんびりと商売が出来たのですが、それもこれも、「酒税法」による「免許制」で「酒屋」が守られていたからだったのでしょう・・・

何故守られていたのかといいますと、当時は「酒税」が租税収入に占める割合が高かったのです。ちなみに酒税が租税全体に占める割合ですが、

昭和 25 年　18%
昭和 40 年　12%
昭和 50 年　７%
平成 14 年　3.7%

だんだんと比率が下がっているのですが、このような変化につれて「免許制」による規制もだんだんと緩くなり、町の「酒屋」は厳しい状況となっていきました。

最近になって再び注目されるようになってきた「かくうち」ですが、当店では、かくうち形式の試飲会も多くやるようになりました。多くの方に、気軽においしい酒を楽しんでもらいたい、知ってもらいたいと思い取り組んでいます。

これからの時代、「かくうち」が過去のものとして尊ばれやがて滅びるのか？新しいスタイルとして発展していくのか？

それは飲み手と酒屋の考え方にかかっているのではないかと思っています。

「A 列車で行こう」

徳永　雅樹

結婚してから夫婦で旅行することが多い。行く先は北は東京、南は鹿児島といったところ。

その移動は可能な限り列車を使う。それが九州内ならまず列車、同じ県内の湯布院や日田でもである。個性的な列車が多い JR 九州の中で今年登場したのが「A 列車で行こう」号である。

ジャズが好きな方はすぐにリズムを思い出すでしょう、そう、有名な「A 列車で行こう」と同じ名前なんです

さてこの列車、現在は週末を主に熊本駅～三角駅間を約 30 分かけて一日二往復運行。2 両編成のこの列車、実は旧型車両をリメイクしたものでどこか懐かしい昭和の雰囲気。

しかし、乗ってみると床や座席に木を利用した豪華な造りとなってます。
そして走り出すと車内から名曲「A 列車〜」が流れてきます。そうなるとあとは飲みましょう。車内にはバーカウンターがあり客室乗務員によりアルコールが提供されます。
「ハイボール」「生ビール」「ソフトドリンク」にツマミ類、なんとも洒落た贅沢な空間です。
これが私が列車で旅する一番の理由。車なら往復の時間は飲めるはずもなく、車窓を楽しみながらのほろ酔いは最高です。また、眠たくなればすぐに眠れます。
もちろん車に比べ不便なところもありますが呑めて眠れて疲れない列車の旅、おすすめします。

母と私の「ありがとう合戦」

大野　真由美

昨年、還暦を迎えて 60 歳の手習いとばかり介護の仕事を始めてしまいました。今年４月より病院にて介護業務を始めた頃、母が自宅にて転倒。背骨を圧迫骨折して救急車で病院に運びこまれるという事態が発生しました。仕事始めが４月２日で母の入院が４月 18 日。その日から仕事終了後、毎日、母のところに介護に通うことになりました。今も、母は入院中。あと１カ月で退院出来る位に回復しました。ここに至るまでには、母の痛い痛い思いと、私の時間の制限との闘いの日々がありました。
当初は動かせない状態で、オムツ使用は勿論のこと食事も寝たまま食べさせました。看護士さんにも大変お世話になりました。その都度、「ありがとう」を連発しております。「ありがとう」の反面、「もう生きられないかも」と弱音をもらしながら毎日、仕事帰りに母の所へ行くのが日課となった私に「ありがとう、涙が出るくらい感謝しているよ」と帰り際にいうのが母の日課となりました。
88 歳の母が、痛い、きついを連発しながら歩きたい一心でリハビリに励んでいます。そのお蔭で、杖歩行でトイレにも行けるようになりなりました。身の回りのこともかなり自立できるようになり、今は、私は見守りで付いています。手を貸した方が速いことことでもじっと見ています。
それでも、「ありがとう」の日課は続いています。母の「ありがとう」と私の「お母さん、88 歳まで一人暮らし頑張ってくれてありがとう、今回もお世話させてくれてありがとう。そして、可愛いおばあちゃんになってくれてありがとう」が行きか会う日々が今も続いています。
病院から帰るともうひとつの日課であるビール２杯、最初は苦い苦いビールでしたが最近は美味しい美味しいビール２杯になりました。ビールの力を借りて、私と母の「ありがとう合戦」は続きます。

釜山の旅

蘇宅　韓五郎

７月 16 日から３日間、吉本先生と釜山を旅した。目的は当然、マッコリと釜山の焼酎であるＣ１（Clean No.1）。

初日は、博多港から釜山港まではビートル。釜山港から徒歩 10 分の大宮参鶏湯で昼食を取り、徒歩 15 分のフェニックスホテルにチェックイン。

龍頭山公園の後は、地下鉄で凡一洞市場へ行き市民の台所を覗きに行った。働いているのはほとんどがアズマ（叔母さんあるいは年齢の高い既婚女性）でその活気には圧倒される。市場から少し離れたところに古物屋があり、城島の酒蔵の陶の樽があった。二斗樽？で価格は５万ウオン、持ち帰るのに苦労するなと思い買うのは止めた。次に行ったときには是非と思っている。

夕食は、南浦洞にある百歳酒マウルと言う店舗兼マッコリ工場で目当てのマッコリ。日本のカッパ寿司店の２階にあり、広くゆったりとしたスペースで出来たてのマッコリを堪能した。

２日目は、トルゴレという店の豆腐チゲで朝食、安くて絶品。日本人観光客も多く安心できる店で、キムチがまた絶品。

朝食後は、地下鉄で釜田洞。釜田駅から KORAIL で機張駅まで列車の旅。機張と言えば蟹、大きなタラバを１匹ずつ、マッコリとＣ１を飲みながら腹一杯に。機張市場を散策後、タクシーで地下鉄安平駅。安平駅から東萊駅、東萊駅で乗換えて温泉場駅へ。虚心庁と言う、数百人が同時に入れる BIG な温泉施設でユックリ温泉三昧。

夕食は、南浦洞に戻り、鍾路ビンデトックと言う店で緑豆を使ったお好み焼きをマッコリで少々。ホテルに帰る前に、焼き肉でＣ１を飲みながら腹一杯に。

３日目は、釜山博物館近くのデジクッパを朝食と思っていたが時間がなく、釜山博物館を見学して南浦洞に戻った。朝食と昼食を一緒にして、チャガルチで刺身を食べながらの反省会でマッコリとＣ１。刺身は、ヒラメ、赤貝、アワビ、ほや、生タコのぶつ切り、んーーん美味かった。

帰りはビートルのグリーン席で缶ビールとワインを程々？

あー、飲み喰い疲れたー！！

・瓜だけをリヤカーで売る釜山街
・マッコリを柄杓で注ぐ梅雨の闇

釜山の焼酎Ｃ１

出来たてのマッコリ

はるなちゃん

角打ちのピアニスト　谷口　淑子

先日、友人のはるなちゃんと戸畑駅で待ち合わせをして、はらぐちさんでカクウチ。はるなちゃんはずいぶん早く着いたみたいで、駅近くの喫茶店でおチャしながら待っていた。そしたらその喫茶店に「偶然、さとこさんが入ってきてさぁ～」と。さとこさんというのは戸畑在住俳句の上手な共通の友人のこと。私にもその喫茶店を紹介するといって、連れて行ってくれてから、はらぐちさん到着。

はるなちゃんは、カクウチの経験はあるらしいけど、「初はらぐち」だった。はらぐち会の安行さんも来てくれて、ほかにもいつものあの人、あの人と次々に入ってきて、思ってもみないなつかしい再会もあった。

はるなちゃんは、ブルーのアイシャドウが涼やかで、「こんなときくらいしかオシャレしないから～」と言って、かわいいネックレスをしていた。「こんなに楽しくていいんやろか」といいながら始終楽しそうだった。わたしも久しぶりにとっても楽しくて、はるなちゃんを連れてきてよかったなぁと思った。

はるなちゃんは調子の悪いときもあるけれど、最近はぐっと調子がよさそうで、歌を歌ったり、ダンスを踊ったりするのがすき。

ほんの小さな一夜のことだけど、わたしにとってなんだかいつまでもこころに残る今夏のお酒の夜のこと。

「はらぐち閑話その 10 とロンドンオリンピック」

酒夢人：諸岡　昭男

はらぐち閑話・・・正直な気持ちとしては、よく 10 刊も発刊出来たなぁ～。

不定期で５刊も続けば・・・・大間違いでした。反省しております。原稿校正や編集など携わっている吉本　安行ご両氏に御礼を申し上げます。

当初は私自身も安行さんから簡単に「面白く可笑しく」何か投稿をしてほしい、仲間内で楽しもう、酒の肴にでもなれば、そのように記憶している。
＊小生は訪問回数が少ないのにお声を頂いて感謝しております。
何刊目かの時によく続いたよなと、はらぐちで顔を会わせては飲んでいた。
その後、徐々にであるが本格的になってきた。正直、その９を見た時は驚いた。はらぐち閑話君よ、よくここまで成長したなぁ～これからもよろしくな。
写真もカラーに、ページ数も格段に増して伺えば部数も増えているとの事、投稿者も多彩になり益々楽しみなってきました。ありがとうございます。

なじみの小料理屋に倉本聰さんの直筆の色紙があります。一度だけ玄関ですれ違いました。時々お見えになっている事はお女将から聞いていましたが、今度は厚かましく一献お願いしようかと。物書きの方はどのような目線で世の中を見ているのか、また、脚本とはどのようにして出来上がるものか。そしてどうして東京を離れ、北海度の富良野に。仮に伺っても理解出来ないと分っていてもやはり彼の生き方に憧れる男女は少なくは無い筈だろう。
また、馴染みのカウンターだけの中国小料理屋があります。お女将？は中国の方ですが仲代達矢さんの行き付けで二度ほどお会いしました。じつに素敵な人です。小生より先輩ですが、宮崎恭子夫人を亡くされてからも変わる事なく人生を歩んでおられる。男として教わる事多々ありました。（ＢＳ放映で）
なんだか老壮年の男の話になりすみません。二人とも酒を愛し　女を愛し実に素敵な男達であり、はらぐち会メンバー同様にいい酒飲み男達に乾杯！！

ロンドンオリンピック・・・過去最多の３８個のメタルを獲得して無事に終了。しかし、オリンピックも様変わりし、まさに驚きの連続でした。
驚愕は審判とは何者、特に柔道において今迄の我々世代には到底あり得ない事が・・・
正反対の判定で負けが勝ちに、いまだに理解出来ないのである。日本選手が勝ったとかのレベルでなく自分なりに悟った事は小生だけではないだろう。柔道は格闘技からスポーツになった。胴着を着たレスリングに無論審判は国際資格をお持ちであろうが、講道館で一度でも稽古や試合の経験があるのだろうか、あくまでも私感だが、大半の審判は無いだろう。

プロスポーツ（興行）では意識的、組織的誤審は無いとは言えないが、およそオリンピックで３審判が「負け」判定、その同じ審判が今度は３審判ともに「勝ち」判定である。
なぜ柔道とボクシングに起こるのか不思議である。フェンシングでの残り１秒の勝利、あの感動は一体何だったのか・・・・・・

全世界で何千万人がスポーツを愛しオリンピックを目指し、日々厳しい練習に耐えてい

る。果して彼等は何を信じて試合に臨めば。オリンピックも八百長がまかり通るかもしれない。
しかし、色々な競技があるものだと改めて知った。競技別総人口はどの位いるのだろうか？例えばエアーピストル競技、練習場は福岡県内にあるのか。警察、自衛隊以外の民間練習場は日本国内に何ヶ所？オリンピックに果し必要だろうか、なぜ女子ソフトボールが外されるのか、これまた不思議である。

それにしても日本選手達はよくやった。よく頑張った。
昨年の震災や原発事故さらに九州豪雨災害が続く中、選手の中には親族や友知人を亡くされ悲しみを堪え試合に臨んだ選手諸君は成績は関係なしに本当に立派であった。

さて、酒飲みオリンピックなるものがあれば・・・・
競技選考資格・・
1） 日本酒１升、ワイン２本、ビール 20 本、ウイスキー１本を１時間内に飲める者
2） 水以外は一切認めない
3） 競技参加資格は男女年齢（２０歳以下は除く）は問わない
4） 競技銘柄は主催側の選定に従う
5） 競技は予選３名　決勝２名で行う　＊応援者は競技場には立ち入り禁止
6） 勝敗は、先に「ゲロ」もしくは１０分以上飲む事を停止した場合
7） 男女対戦は全て同条件とする
8） 自薦他薦は自由とする

はらぐち閑話読者やはらぐち会面々は当たり前であろうが、資格は十分クリアーするはずである。
資格保有者は「適量飲酒」を忘れずに、訂正、忘れて大いに飲みましょう！

残暑お見舞い申し上げます

博多海鮮居酒屋はじめの一歩：女将

毎日残暑厳しいですね！
本当にバテますよね。

暑くて疲れるなか、マジで疲れることもありますよね・・・|||(-_-；)||||||

先日、はじめの一歩の女子トイレで気にいっていた置物を盗られてしまいました。長崎のグラバー園のガラス細工屋さんで買った小さなガラスのスタンド・・・・
ほのかな灯りがかわいくて思わず買ったものでした・・・

・・・・・・・

・・・うおおおおぉぉぉ凸(゜皿゜メ)
誰だ～～～～！！

返せ～～～～！！
返してくれ～～～！！！((o(>皿<)o))キィィィ!!

確かに食事に来てくれたことはありがたい・・・

しかし！！あんた！店の物盗って・・・
そして盗った物家に飾って嬉しいのか？？？？(＃｀皿´)　ムキーーーー!

そういえば昔、花瓶盗られたこともあったな～～～
大きなものだったのに・・・・・どうやって盗ったのか今もわかりません。
カウンターの上にあったものがある日忽然と消えるなんて・・
植木を盗られたこともある・・・・・
そりゃお客さんだけど・・・ダケド・・ダケド・・・・ドロボウダ！！！

も～～～～！！！
ご来店誠ににありがとうございませんでした！！　(￣へ￣凸

え～～、気を取り直してご報告です。
先日、講談社さんから、取材の申し込みをいただいたのですが、ナ、ナント福岡ウォーカーさんからの取材の時に来ていただいたあの「吉田類」さんのからの推薦というじゃあないですか！！
嬉しか～～～～～(*´▽｀*)マジで嬉しか～～～～（涙）
あんな有名人に　　推薦していただけるなんて！！

誰ですか？？
知らんかったくせに・・・・しかもＡＶ女優と間違えたくせに・・・なんて言ってるのは！！

・・・・・

・・・・いや、そりゃ～～最初は知らなかったけど・・・ゞ(;´▽｀A``アセアセ
福岡ウォーカーの本がでてから、吉田類さんの人気を思い知りました。

ファンの方がはじめの一歩に来られて「類さんどこに座ったんですか？」

「何を食べたんですか？」なんて聞いてこられるんですから！！

そんな素敵な吉田類さんに感謝。
ありがとうございます！
▲▲▲ｱﾘｶﾞ島▲▲▲

あ、そうそう、お知らせがあるんですが、ヤフーのグルメサイトの「はじめの一歩」のホームページに記載されている「予約専用ダイヤル」の電話番号で電話をかけないでくださいね！実はこれ一通話 500 円もとられる「恐怖の予約ダイヤル」なのです。
ш(ﾟﾛﾟш) ｵｰﾏｲｶﾞｰｯ!!
なんと、ちゃんと当店にもフリーダイヤルがあります！
０１２０－３４３－９１４　「さしみ一食いーよ」と覚えてね！
((ﾉ(_ _ ﾉ)よろしくお願いします。

「オマエが変えろ」

櫻木　大祐

先日、八幡市民会館の暑気払いに参加させていただきました。
八幡によく出入りしている業者や司会者、そして20年来お世話になっている大先輩方と御一緒しました。
情報交換がひとしきり済むと話は「使えないヤツ」の話にシフトしていきました。話の主人公になっていた「使えないヤツ」は各館各所でやらかしているらしく、話はつきませんでした。
宴もたけなわになり、皆の顔が赤らみ始めた頃、大先輩のお一人がおもむろに口を開き、「大祐よ。もう爺ぃの時代は終わったんやからな。オマエが変えろ…」と言って頂けました。半分はリップサービスかもしれないけれども、高校時代からずっと見守って頂いていた大先輩に、やっと認められた気がして正直嬉しくて不覚にも泣いてしまいそうになり、あわてて酒を飲み干したのでした。

今、開演ベルがなり、客電が静かにフェードアウトしていきます。

いよいよ櫻木劇場第二幕の開演です。

【何を書いていいか悩んでいたら完全に雑談になりました】

teizuisun：明菜(はるな)

はらぐちにお集まりのみなさんお久しぶりです。低髄さんことはるにゃんです。いい年してはるにゃんです。25 歳ですがはるにゃんです。恥ずかしがらずに呼んでください。

手紙を書くような気持ちで「はらぐち閑話」に投稿させてもらえてありがたい半面、毎回締切に間に合わなくて申し訳ない気持ちでいっぱいです…。安行さんごめんなさい。

さて、私は何の話をしたらいいのでしょう（笑）鍋島の歌以来の投稿な気が…。

そうそう、東京でもはらぐち仲間のような感じで日本酒仲間がいます。先日酒屋さんで鍋島の歌を歌ったところとても好評でした。東京で「日本酒会」を作ろうかと仲間内で企んでいます。また、歌に関しては先日、赤坂でゲストシンガーとしてピアニストの方のライブで歌わせていただいて以来、いくつかのリクエストが来て銀座でライブをさせていただけることになりました。早く福岡でも歌いたいです。

そして、5 月に会社設立 1 周年を迎えました。未だに一人でマイペースでやってます。最近はアメーバニュースやガジェット通信に美容を科学したコラム「ゴスロリ社長はるにゃんのエステの裏技」を週 1 で書くようになりました。今後は ISO を身近に考えられるようなコラムも連載予定です。ISO を受けたいと問い合わせてくれる企業が増えてくれるといいなぁ…(笑)そして、低随の症状が悪化してきた為細かい仕事ができなくなりました。ということで弊社オリジナルラジオ波キャビテーションマシンを開発しました。初めて工学部が役に立ちました（おい…）。今後はチェーン展開というかエステサロンの枠を越えて、整体院等の集客アップのためにマシンを取り入れてもらいつつ、安定した業績アップのコンサルで稼いでいきたいと思います。営業は不慣れなので頑張ります…！

最近は国内最大の起業家 SNS「Festivo」にて起業家をサポートするサポーターとしてもコラムを書いています。もともと「起業の理由が後遺症だったから、震災を理由に起業する人がいるかも。ハンデ（私の場合は体調）ありのド素人で起業した自分の経験が役に立てば…」という軽い気持ちだったので 1 年程でそのお手伝いができるようになったことが少しうれしくもあります。巷の起業本に載ってない生きた情報を伝えていけるように経験を元に書いているのでグダグダです。でも「はるにゃん」キャラのおかげでむしろ良いようです。（それに起業したてなんて大半の人がグダグダですからね！！）震災と言えば先日、石巻を見てきました。未だにガレキだらけです。ガレキ受け入れの問題はもっと大きく取り上げなければ東北がかわいそうです。為す術がありません。しかもガレキだらけのあの土地は国が買い取ってくれないだけでなく、被災者が自ら売らなければならないそうで、被災者の負担はいつまで経っても軽くなりません。私たちに出来ることはなんだろう…と考える毎日です。何かアイデアや聞きたいことがあれば FaceBook にメッセージをください。http://www.facebook.com/cando.inc.HalNiang です。

一日数時間しか動けない低髄の割にはよくやっているなぁ…と我ながら。近況報告をしていたら A4 一枚に達しました。これ以上はもういいと思うので今回はこのへんで…(笑)

＊teizuisun：九工大の卒業生、脳脊髄液減少症と闘いながら東京で起業し、ISO のコンサル等を行っています。

元気印の健康長寿のために――ハレ文化のすすめ

吉本　光一

残暑お見舞い申し上げます。

この間の旧友会報で札幌－函館の長ウォーキングを拝見。お元気ぶりに一驚を喫した次第です。

十月中旬に家内の母親の法事で福岡に行きます。お会いして元気の秘訣を聞かせていただければさいわいです。……

朝顔の挿絵と抽選番号の入ったはがきが、抽選日の迫ったいまごろになって届いた。見覚えのある、新聞社時代の友人の筆跡である。

札幌のユキちゃん、函館のえっちゃんの北海道一周 2500km のテクテクの最終コース 250km を一緒に歩くことを、５月に旧友会報の近況欄に載せたのを読んだらしい。彼は大学時代、ボートの選手でローマ・オリンピック（1960 年）に出場した経験を持ち、夫妻とは、彼が北海道支社報道部のデスクだっ 30 余年前、札幌－支笏湖間 32km のコースを一緒に歩いた。その彼から「一驚を喫した」といわれると、30 年の段差を感じてしまう。

数々の身体の綻びをつぐないながら生きている身だ。「秘訣」があるなら、こちらが聞きたいところだが、これまで糖尿病、高血圧、脂質異常、肝機能異常とは無縁で、中国・韓国に出掛けてまで世界の酒を思い切り堪能できているのは、自分でも不思議に思うことがある。改めてその背後を見つめなおした。

百歳老人にハメられた

まだ百歳の人が珍しかったころ、NHK-TV の敬老の日にちなんだ番組で元気な百歳老人にその秘訣を尋ねた。たばこを吸わない、酒も飲まない、規則正しい生活を送っている、と真面目に話す姿が画面に映し出された。その番組のディレクターがあるとき、「いまだから話せる」と私に打ち明けた。「あの老人、実はとんだ食わせ者でした」。

収録が終わったとたんに、老人は懐からたばこを取り出して吸い始めた。湯飲み茶わんのふたを取って口に運んだが、中身はお茶の色ではない。「これ、焼酎だよ」と言い、相手が驚くと、「こうやって、人の驚く顔を見るのは楽しいのう」と、さも気持ちよさそうに笑ったという。「人の裏をかいて驚かすことが、彼の元気の秘訣だったんですね」。

このディレクターは医学の素養のある、生真面目な人だった。新聞の投書欄の常連には、担当者の書いてほしいと思うことを読み取って作文する才覚の持ち主が少なくない。学者的な知識を持ち、医学面から元気百歳の根源にアプローチを試みたこのディレクターは、ちょっぴり意地悪な元気老人にとってハメやすい相手だったようだ。

ディレクターはこのとき、医学的要因以外の要因が強く働いていることをひしひしと感じとったが、ＴＶを見た全視聴者は、彼ともどもこの元気老人にすっかりだまされた。

日本人の平均寿命が世界一に達する以前、老年医学の専門家の間で、都会に住むことが長寿の要因と言われた。男性の平均寿命を都道府県別にみると、昭和 50（1975）年には、

１位東京都、２位神奈川県、３位京都府。女性も昭和 40 年代までは１位を東京都が占めていた。当時、医療施設も生活や文化の水準も一部の大都市に偏っていたから、日常生活面のさまざまな刺激と利便、発病時の対応の両面からみて、都会生活と長寿の関連性は理にかなっている、と考えられ、一時期、それは常識とされていた。

しかし、この常識はほどなく覆された。男性の同ランキング１位は昭和 55 年に沖縄へ移り、次いでこの 20 余年間は長野県が占めている。女性の同１位は昭和 50 年以降、沖縄県が独占している。平均寿命のランキングは急テンポで都会離れしてきた。また、統計上の平均寿命と健康寿命の間に全国平均で約 10 歳のズレがあることが厚労省の調査で浮上した。健康寿命については、平均寿命のような都道府県別の調査資料はない。

背景に病気のモデルチェンジ

では、医学的要因以外の元気老人の要因、あるいは平均寿命には表れない元気さの要因とは、いかなるものだろうか。その答えを導き出すのに有力な手掛かりは、日本人の病気のモデルチェンジにある、と考えられる。

日本人の疾病構造に、1950 年を境に未曾有の大変化が起きた。疾病構造とは、国民の死因となる病気の主力をいう。死因の首座を占める病気が、49 年までは感染症だったのが、50 年以降は脳卒中、がんと、生活習慣病に移った。この変化が、日本人の生活や意識に大きな変化をもたらした。

最も大きな変化は、患者と医師の間の人間関係の面に起きた。感染症の場合は病気の原因が患者の外部にあり、その治療の場では、患者は「治してもらう人」、医師は「治す人」と両者の立場・役割がはっきり分かれていた。これに対し生活習慣病は、発病の要因が多様で、環境側と患者自身（遺伝、生活習慣）の双方にあるので、その治療には患者自身の生活の改革が不可欠だ。すなわち患者自身が「治す人」の役割を担い、その半面、医師の役割は「治療を助ける人」へと後退した。また、糖尿病や高血圧症を発病したからといって直ちに入院治療が必要なわけでなく、仕事を免除されることもない。一言でいえば、病気と健康の間がボーダーレスになったのである。

変化に迫られたのは、発病後の治療だけではなく、予防の面もまた同じだ。典型的なのは、高血圧、糖尿病、脂質異常、腹部肥満の４つが１人に出そろったケースで、４つのどれもが軽度な状態であっても、動脈硬化が急速に進展して心筋梗塞などの致命的な合併症を起こす。メタボリックシンドローム（症候群）がそれだ。合併症の発症を防ぐには、4つの要因を進展させないための生活改善を日々、創造的に持続していくほかはない。

介護保険で「要介護」の認定を受け、介護サービスを受けている人の大半は以前に障害のもとになる病気を患っていた。そのほとんどは、動脈硬化、認知症、生活不活発病のどれかだ、と厚労省は分析している。

「要介護」状態までには至らなくても、加齢とともにさまざまな生活障害に見舞われるのを、だれも避けることはできない。私自身の経験でも、いましがた机の上に置いたばかりの財布やカギが見つからない。しばらく時間をおいて見直すと、ちゃんと元の場所に存在するのに、バスの時間が迫って焦るとなお目に入らない。ポストから持って帰った郵便が、はさみを取り出して封を切ろうとすると見つからない。こんな探し物を日に何度も繰

り返している。
リタイアしたら、好きなことが何でもできる、と希望を燃やしていた初期のころは、そんな自分を受け入れることができなかった。いらだったり、絶望感に襲われもした。だが、否認して事態が好転するわけではない。逆に異常は聴覚にも広がった。左のスピーカーの高音域がかすれるのを、初めはアンプかスピーカーの老化のせいだと考えていた。ところが、ふとしたことで左の外耳の後ろに手を当てたら、高音域も明瞭に聞き取れて、老化したのは装置でなく当方の聴覚だと悟った。

創造力こそ生活革命の原動力

生活習慣病や生活上の障害を持つ自分を受け入れることは、病気や障害と妥協することとではない。その状態をそれ以上悪化させないために日常生活を絶えず見直し、軌道に載せる努力と工夫を創造的に持続していくためのステップにほかならない。生活革命が成功するか否かは、日々の生活をいつも新しい目で見つめることができるかどうか、言い換えれば、生活の中に創造力が生きているかどうかにかかっている。

「子どもにとって、創造力こそ終生の幸せの根源だ」と言ったのは世界最長老の絵本画家、ワイルドスミスだ。老人が年取った子どもであるなら、老人にとっても幸せの根源であることに変わりない。創造力を養う上で優れた場に、人との交わりを深める遊び・競技がある。遊びが創造力を高め、それが遊びを深める。高めた創造力は、病気や障害で傷ついた身体や心に元気を呼び戻す最高の薬となる。

酒がなぜ、遊びの心をくすぐるのか。私たちの祖先は、弥生の昔から酒をハレ（非日常）の祭事に欠かせないワキ役として育て、守ってきた。ハレの祭事の中の舞いが流れて踊りとして一本立ちしたように、遊びは非日常という点でハレの祭事と共通している。酒を酌み交わすことによって、ハレの祭事が私たちの心の隅によみがえり、遊びの心へとつながってゆく、と考えるのは思い過ごしだろうか。

ともあれ、角打ちの場に生まれた「はらぐち閑話」が第 10 号を迎えたことは、伝統の酒が遊びー創造力を育むという仮説を実証したことでもある。超高齢時代のいまこそ、ハレの文化を大切にしてゆきたい。

「はらぐち閑話その１」に掲載した文です。
懐かしく思う方、発展したなーと思われる方、これからも宜しくお願いします。

発刊にあたり

呑兵衛がコップの代わりにペンを持つなど想像もしませんでしたが、ふとした弾みで、老体内にも燃え尽きずに残存している創作力の火種を掻き立てたら心の健康にも良いのでは、と、はらぐち会メンバーの遊びの心が一つにまとまり、小誌の発刊に至りました。今宵の酒のつまみにして頂ければ幸いです。

整った組織も財政基盤も持たないはらぐち会ではありますが、月一ないし二月に一回のペースをめざして祇園山笠に負けない気勢をあげています。昔カストリを飲んだら 3 合で(酔い)潰れたことから「かすとり雑誌」（三号で潰れる）の流行語が生まれましたが、いま人生 80 年、70 代でも若手に負けじと「呑む」時代、三号で潰れたら角打ちの酒が泣きます。だれでも歓迎、投稿をお待ちします。題材、文の長短を問いません。

「酒」に縁のある内容であれば言うことなしです。

投稿は、はらぐち酒店に預けていただくか、kei2@bronze.ocn.ne.jp へ宜しくお願いします。

（編集者一同）

９月８日（土）第９回リバーサイドコンサート in 紫川

編集後記

☆「老人性痴呆」（と当時いわれていた）が社会問題になり始めた 30 年前、「40～50 歳のとき創造力をフル回転させた人は年取ったときにボケない」と京大の老年医学の教授から聞いた。同じころ、東京・浴風会病院の院長さんは「ボケない職業」として、料亭の女将、開業医、

政治家をあげた。３者の共通項は「気配り」だ。「気配りの安行さん」を見ていると、気配りと創造力はコインの裏表、だと気づく。その創造的な持続力が「はら閑」を支えてきた。京大教授は「いま創造力を働かすことが 20 年後の創造力を養う」といったが、はら閑発刊後に始めた安行さんの俳句は先月、NHK-TV で全国に紹介された。創造力の循環がこれほど早いとは……。

☆先号の編集後記の中の「旦坐喫茶」は「且坐喫茶」ではないか、とご指摘を頂いた。その通りです。老眼がパソコンのフォントにだまされていました。

☆若戸大橋開通 50 年のこの秋、橋の下に海底トンメルが、自動車専用道路として開通する。先日の公開日に龍さんと歩いてみた。いや、その蒸し暑いこと。とても往復する気になれなかった。21 世紀のいまどき人の歩けない海底トンネルだなんて、時計が 50 年前のままなんだなぁ。（ぽんぽん仙）

節目の「はら閑その 10」、皆さんの言われるようによくも続いた。「はら閑その１」は昨年の３月 14 日発刊で筆者は６名の出発でした。今は 10 名以上の筆者がスタンバイしてをり心強い次第です。この節目に、17 名の筆者の方に参加いただき感謝申し上げます。次の目標は「はら閑その 20」です。それまで見守っていただければ幸甚です。

「まぁ、ゆっくり世間話をしていきませんか。お茶でなくお酒を呑みながら」。

投稿をお待ちします。題材、文の長短を問いません。「酒」に縁のある内容であればいうことなしです。

投稿は、はらぐち酒店に預けていただくか、kei2@bronze.ocn.ne.jp へ宜しくお願いします。

「はらぐち閑話」は、はらぐち酒店ＨＰ（http://homepage1.nifty.com/haraguchi/sake/ もしくは、戸畑はらぐち酒店で検索してください）の「かくうちの部屋」でご覧いただけます。

次回発行は 11 月 10 日（10 月 31 日締切り）とします。（今朝の鮭）

はらぐち酒店：北九州市戸畑区中本町４番９号

電話０９３－８７１－２１５０

sake-tobata@nifty.com